

第2回青森市統合新病院整備場所等検討会議 議事要旨

○日時 令和5年12月22日（金）18時00分～19時45分

○場所 青森市役所本庁舎2階 庁議室

○出席構成員（11名）

青森公立大学経営経済学部 足達准教授、青森市浪岡商工会 一戸会長、
青森商工会議所 葛西専務理事、青森県建築士会 工藤副会長、
国立病院機構本部DMAT事務局 近藤次長、青森市農業委員会 福士会長、
青森県立保健大学健康科学部 三好准教授、青森県不動産鑑定士協会 最上監事、
青森市医師会 北畠会長、青森地域広域事務組合 佐藤消防長、
青森市病院運営審議会 原子前委員

○欠席構成員（1名）

青森市町会連合会 佐々木会長

○案件

- (1) 第1回検討会議の議事要旨について
- (2) 統合新病院の整備に望ましい場所について

(1) 第1回検討会議の議事要旨について

- ・意見なし

(2) 統合新病院の整備に望ましい場所について

【共同経営・統合新病院を整備することとした経緯等について】

(最上監事)

- ・両病院が抱えるさまざまな課題の早期解消を最優先に考えていくべき。
- ・資料で示されたハイボリュームセンターやマグネットホスピタルとして診療機能の向上が期待できる病院を作ることが大事であり、ここに費用を掛けるべき。このような考え方に立ち、用地取得に費用を掛ける必要があるのかどうかという視点も大事だと思う。

(福士会長)

- ・青森県総合運動公園にはユネスコとの協議や建物の制約があることを考えると、整備場所は青い森セントラルパークと旧県立青森商業高校及び県立中央病院敷地の2か所に絞られるのではないかと感じている。

(北島会長)

- ・昔から整備場所にはセントラルパークがすごく良いと思っていたが、アリーナの整備によって敷地が小さくなってしまった。全国的に見れば狭いわけではないが、以前に比べると狭小化してしまったので、その点が引かかっている。確かに、院舎も建設できるし駐車場も立体にすれば良いとは思いますが、もう少し余裕を持った土地の方が良いのではないかと考えている。

(一戸会長)

- ・さまざま議論することも重要だが、新病院の完成時期を決めてから逆算して物事を考える方が大事ではないか。

【まちづくり、通院アクセス】

(工藤副会長)

- ・十和田市や八戸市では中心市街地に美術館などを配置しており、特に十和田市に関しては、官庁街通りにほとんどの公共施設が集積している。一方、青森市内にある県施設を見ると、県立図書館や県立美術館は郊外に位置しており、青森市都市計画マスタープランの考え方に合致しない配置となっている。
- ・新しい統合病院を建てるに当たっては、中心に近いところに建てた方がより青森市が活性化するのではないか。

(葛西専務理事)

- ・青森県及び青森市における今後の人口減少を想定した場合、経済的な観点からも分散よりコンパクトに集積を図っていくという考え方が重要。また、人がより集まるエリアが明確になると、地元企業もビジネスを展開しやすくなり、結果的にまちの活性化にもつながっていく。

(福士会長)

- ・今回の資料に追加された農地に関しては未相続の農地も多々含まれている。この未相続の農地は農地中間管理機構から借り受けて耕作できるシステムになっているが、持ち主が不明なため買収するとなると相当難しいのではないか。

(最上監事)

- ・(市街化調整区域の農地を5万㎡以上購入する場合の期間について) その筆数や関係する所有者、相続登記の状態などにより一概には言えないが、10年程度は掛かるのではないか。

(三好准教授)

- ・市営バスの運行に当たっては、できるだけ他の便に影響を与えないという意味での効率性や、市内外各地から利用されることを念頭に移動距離や時間など公平性を確保することが望ましい。
- ・統合新病院の整備に当たっては、公共交通の充実が望まれており、青い森セントラルパーク周辺については、県と市で青森操車場跡地新駅整備勉強会を実施している。この新駅整備が実現すれば、道路渋滞緩和の観点からも有益と考えられる。

(原子前委員)

- ・徒歩で目的地まで行く場合、季節や年齢などの条件によって所要時間は変わるものの概ね20分程度が理想的。
- ・路線バスについては、目的地やその付近まで行けるというメリットがあるので、路線や停留所、循環バスなどを充実させてほしい。

(最上監事)

- ・青い森セントラルパークを整備場所にするには良いとは思いますが、線路を挟んだ北側と南側をつなげるためにも新駅がなければ中心部の活性化をかなえることは難しいのではないかと。また、その場合は荒川通りと観光通りの渋滞を少しでも解消していくように努めるべきであり、少なくともバスが停まるエリアは確保すべきではないかと。

(北島会長)

- ・訪問診療で市内各所の道路を通っているが、冬場のセントラルパーク周辺はすごく大変。除雪や道路改修についての資料が示されたが、本当に上手くいくのか、救急車は大丈夫なのか、心配なところ。青い森セントラルパークが整備場所になるのであれば、それらの対策をしっかりと講じていただきたい。

(佐藤消防長)

- ・除雪に関しては、道路幅が広いことは望ましいところではあるが、雪国であれば雪解けが進まない限り道路脇の雪が全てなくなることはないため、多少時間を割いても安全に現場活動することを心掛けている。

(工藤副会長)

- ・無理を承知でお話させていただくと、青い森セントラルパーク北側の市有地から線路をまたぎ真っ直ぐ道路を作ることができれば、かなり便利になると思う。

【救急搬送】

（佐藤消防長）

- ・ 3か所の検討対象地について、道路幅に違いはあるものの救急搬送に関してデメリットは感じていない。ただ、青森県総合運動公園までの経路である浪館通りには線路が2か所あり救急搬送を行う上で気になっている。
- ・ 救急搬送は1分1秒を争う。そういう中で業務を行っており、少しでも早く医療機関に到着したい、医師の管理下に置きたい、そのためにも走行時間は短くしたい、ということを見ると、中心部に医療機関があるということが非常に望ましいと感じている。

（最上監事）

- ・ 県立中央病院がなくなると東部に救急患者を受け入れる病院がなくなってしまうが、救急病院の配置バランスを考慮する必要はないのか。

（佐藤消防長）

- ・ 救急搬送に当たっては、傷病の状態に見合う医療機関を選定しており、必ずしも近いところを選んでいるわけではない。

（近藤次長）

- ・ 資料として救急車到達圏人口（5分・10分）が示されているが、1分1秒を争う重症患者の救命を考えると、その時間内に到達できない患者がどのくらいいるのかということの方が重要。
- ・ どこに病院があるべきなのかを考えるに当たっては、病院が一つ減るという数の視点と、重症患者の救命という質の視点、2つの視点があるが、まずは質の面を優先し命を救うためにはどこに病院があるべきなのかを重視すべき。
- ・ 全国的には、病院内に消防の救急車や救急隊を配置する救急ワークステーションを設置し、救急隊の質の向上や技能維持に役立っているという報告がある。今後、新病院の機能を検討する際、救急ワークステーションの導入を検討してみてもどうか。

（北畠会長）

- ・ 青森市医師会としては、今回示された4つの検討箇所、どこであっても協力したいと思っている。できれば新しい病院のそばに急病センターを作り、新しい病院の先生方と青森市医師会とが協力しながら一次救急を受け入れる体制を構築していきたい。

【災害関連】

(近藤次長)

- ・日本に住んでいる限りどんなところでも災害リスクはある。つまり、どこを選んでもリスクがゼロということはありませんので、リスクをしっかりとコントロールできることを目指して整備場所を選ぶべき。
- ・被災時における基幹災害拠点病院の機能を考えると、洪水であれば、仮に自院が被災しても、自院以外に重症患者がたくさん出るというわけではないし、他院が複数被災することも非常に少ない。
- ・一方、津波は地震に伴う広域災害であり病院も広範囲で被災することが想定される。そうすると、多方面から患者を受け入れなくてはならない事態が想定されるので、やはり津波によって診療機能が低下することは避けた方がよく、避けられるのであれば避けるべき。
- ・災害リスクという観点で言えば、建て増しの病院は電源関係が非常に複雑になり脆弱なので、できるのであれば病院の拡充や建て増しは避けた方が良い。

(最上監事)

- ・敷地が広いということ、現病院を活用したまま新病院を建てられるということ、駐車場の敷地も十分に確保できるということ、アクセス面を見ても主要幹線道路である国道4号の利用により救急搬送やバスの便が良いということ、以上のことから旧県立青森商業高校と県立中央病院の敷地が適地であると考えていた。
- ・しかしながら、今回の資料を見ても津波が一番懸念されており、東日本大震災で被災した県にありながら、あえて津波の危険性がある場所に新病院を建てることには無理があるのではないかと改めて考えている。

【その他】

(足達座長)

- ・次回の会議（1月26日（金）17時30分）は、これまでの資料を基に、統合新病院の整備に望ましい場所について、自由な形で皆様から御意見をいただきたい。併せて、跡地利用についても皆様の御意見をお聞かせいただきたい。